

埼玉県における産業動向と見通し

4～6月の産業天気図は、3年半ぶりに「小雨」が解消するも、ウクライナ情勢

概況

わが国の景気は、持ち直しの動きが続いているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残るなかで、一部に弱さがみられる。埼玉県の景気も、感染症の影響で厳しい状況が続くなか、持ち直しの動きに弱さがみられる。

先行きについては、まん延防止等重点措置が3月に解除されたことから、景気の持ち直しが期待されるが、ウクライナ情勢等により、不透明感が強くなっている。

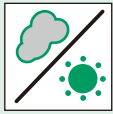
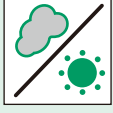
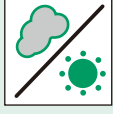
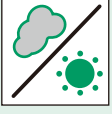
聞き取り調査の結果、埼玉県の1～3月期の産業天気図は、電気機械、鉄鋼、建設が「薄日」となる一方、一般機械、百貨店・スーパーが「曇り」、輸送機械が「小雨」となり、業種によるバラツキがみられた。

4～6月期の天気図は、いずれの業種とも「曇り」以上となり、3年半ぶりに「小雨」が解消するが、下振れリスクは残る。

主要産業の動向は、以下の通り。

- **一般機械**の生産は、前年を下回った模様である。先行きについても、前年をやや下回る水準で推移するとみられる。
- **電気機械**の生産は、電子部品・デバイスを中心に持ち直しの動きがやや鈍化している。先行きは堅調な推移が見込まれる。
- **輸送機械**の生産は、前年を下回ったとみられる。先行きは、半導体や部品不足で弱い動きが続くが、新型車の発売が予想され徐々に上向く見通し。
- **鉄鋼**の生産は、前年を上回ったとみられる。先行きについても、前年を若干上回る水準で推移しよう。
- **建設**は、公共、民間とも手持ちの工事量が多く前年並みで推移した。先行きは、現状程度の動きが続くと見込まれる。
- **百貨店**の売上は増加、**スーパー**の売上は堅調に推移している。先行きは百貨店は上向き、スーパーは前年割れだがコロナ前の2019年比では増加が続く。

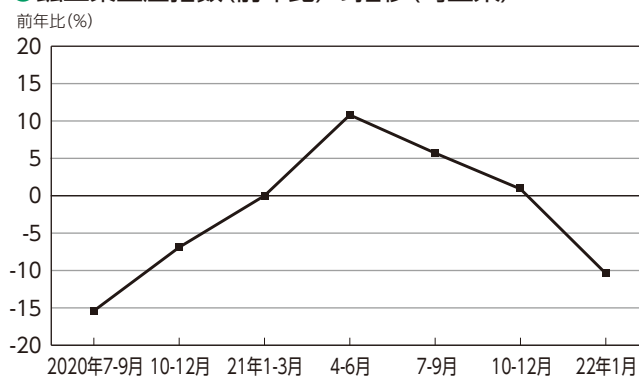
産業天気図

	現状 (1～3月)	今後 (4～6月)
一般機械		
電気機械		
輸送機械		
鉄 鋼		
建 設		
百貨店・スーパー		

天気図の見方



● 鉱工業生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

等による不透明感から下振れリスクは残る

主要産業の動向

(1) 一般機械…前年を下回る

県内の一般機械（汎用機械＋生産用機械＋業務用機械）の生産指数は、昨年1～3月期の前年比＋29.9%から7～9月期の同＋18.7%まで前年を大きく上回って推移したものの、10～12月期は同▲2.5%と4四半期ぶりに前年割れとなった。本年1月についても、汎用機械は前年を上回ったものの、生産用機械が大幅な前年割れになったことなどから、一般機械の生産指数は同▲28.8%と前年を下回った。1～3月期を通して、一般機械の生産は前年を下回った模様である。

内訳をみると、汎用機械では、空気圧機器の生産が工作機械向けを中心に高水準で推移してきたが、このところやや減速している。昨年の春先から持ち直してきた歯車は、引き続き底堅く推移している。

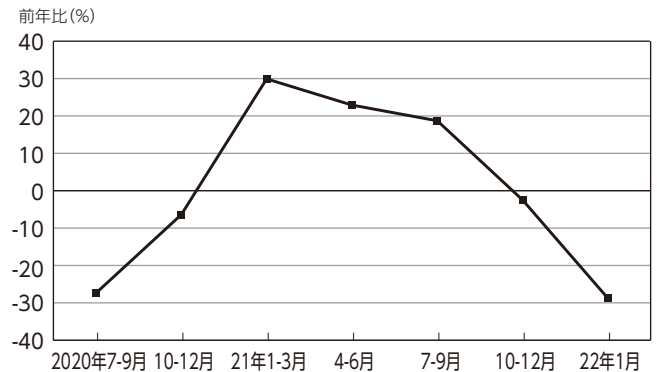
生産用機械では、世界的な半導体不足を受けて、全国の半導体製造装置の生産が好調に推移するなかでも、県内の足元の生産は力強さに欠ける展開が続いている。

業務用機械では、医療用機械器具は昨年の夏場には一時減速していたが、年末にかけて持ち直してきた。パチンコは、新型コロナ感染拡大の影響で遊戯人口が減少しており、生産は引き続き低調に推移している。

先行きをみると、汎用機械では、前年の水準が高かったこともあって、空気圧機器は前年を下回って推移しよう。生産用機械では、半導体不足の状態が当面は続くと思われることから、県内の半導体製造装置の生産も徐々に持ち直していこう。業務用機械では、医療用機械器具は比較的底堅く推移しよう。一般機械の生産は、前年の水準をやや下回る水準で推移するとみられる。

収益面では、これまでも特殊鋼やエンジニアリングプラスチックなどの原材料価格が上昇し、コストが

●一般機械の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

(注)一般機械=汎用機械+生産用機械+業務用機械

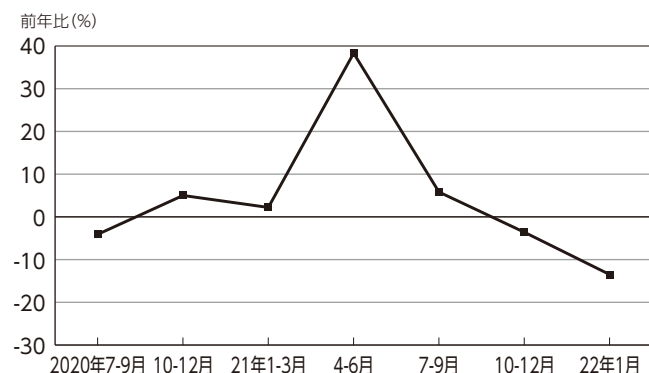
押し上げられてきたが、ロシアのウクライナ侵攻を受けて、原油や非鉄金属など国際商品価格が一段と上昇している。物流網に影響が及び、資材等の調達にも支障が生じかねない状況にあり、先行きの生産への不透明感が強まっている。

(2) 電気機械…持ち直しの動きがやや鈍化

県内の電気機械（電子部品・デバイス＋電気機械＋情報通信機械）の生産指数は、昨年7～9月期前年比＋5.8%、10～12月期同▲3.6%と新型コロナ感染症拡大の影響が大きかった一昨年4～6月期の同▲22.9%を底に持ち直している。足元については回復の動きがやや鈍化しており、1～3月期は前年同期比でややマイナスとなった模様。電気機械の生産は製品によって振れが大きく、このところの減少はカーナビ・カーオーディオなど情報・通信機械の減少の影響が大きい。電子部品・デバイス、電気機械は比較的堅調に推移している。

電子部品・デバイスの生産は、昨年7～9月期前年比＋30.2%となったが、10～12月期は同▲2.8%となり、本年1～3月期も前年比マイナスが続いたとみられる。自動車向け、産業機器向けの電子部品の需要の増加により持ち直しが続いていたが、このところやや一服感がみられる。電子部品は組み込まれる製品の電子制御の高度化などから、必要点数が増加しており、メーカーの調達意欲は引き続き強い。

●電気機械全体の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

(注)電気機械全体=電子部品・デバイス+電気機械+情報通信機械

自動車メーカーや産業機械メーカーなどで、部品の在庫を積み増す動きは収まってきたが、製品によってはフル生産を行っても、依然供給不足の状況が続いている。設備の関係でこれ以上の増産は難しいようだ。

電気機械の生産は、昨年7～9月期前年比+21.4%、10～12月期同+11.0%となった後、本年1～3月期は前年比横ばいで推移した模様。電気機械は県内で生産されるものは、産業向けがほとんどである。県内で生産される電気機械の多くは、生産機械や情報システムなどに組み込まれる電気関連の部品や装置であり、組み込まれた機械は海外へ輸出されることも多い。生産機械は中国など海外需要が強いことに加え、国内でも設備投資が持ち直していることから生産増の動きが続いている。データセンターなど情報化投資も堅調なことからなど産業向けの電気機械の生産は堅調な動きが続いている。

情報通信機械の生産は、昨年7～9月期前年比▲17.3%、10～12月期同▲15.5%となり、本年1～3月期も前年比マイナスが続いたとみられる。県内での生産はカーナビ、カーオーディオ、業務用通信機器、計測機器が中心となっている。自動車の生産が半導体不足の影響などから、減少を続けていることから、カーナビ、カーオーディオなどの生産が影響を受けているとみられる。

先行きについては、電気機械全体については堅

調な動きが続くとみられる。自動車の電動化や電子制御の高度化にともなう電子部品の需要増や、5G関連やデータセンター整備に加え、防災、防犯関連の監視カメラや監視システムなどインフラ関連への期待も大きくなっている。

(3) 輸送機械…生産は前年を下回る

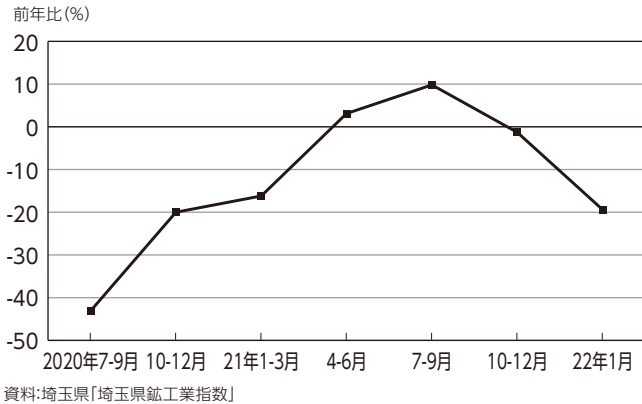
県内の乗用車販売台数は、昨年7月以降、前年割れが続いている。半導体不足や新型コロナ感染拡大による部品不足に加え、国際情勢の不安定化などの影響で、完成車メーカーの減産が広がり納期が遅れていることが影響しているとみられる。車への消費者の需要は強いとみられるが、供給制約により販売が伸びていない。

生産動向をみると、県内の輸送機械(乗用車・トラック・自動車部品等を含む)の生産指数は、昨年4～6月期に前年比+3.1%、7～9月期に同+9.8%と増加に転じたものの、10～12月期には同▲1.3%と再び減少した。半導体や部品不足などで減産が行われ、本年1～3月期の生産も前年を下回り、コロナ前の2019年比でも大幅に減少したとみられる。先行きについては、部品や半導体不足、国際情勢の不安定化の影響で、県内の乗用車の生産は弱い動きがしばらく続くが、新型車の発売が予想され徐々に上向く見通しである。

トラックの生産は、弱含んでいる。昨年は、その前年が新型コロナの影響で大幅に減少していたこともあり、前年を上回っていたとみられるが、新型コロナの影響による半導体や部品の不足などが生産に影響したとみられる。今年1～3月期も、こうした影響を受け生産は停滞しているようだ。

需要面では、輸出向けが増加していることに加え、国内では、都心を中心とするマンションや商業施設、オフィスビルなどの再開発が続いていることや、コロナ禍の巣ごもり生活を支えるネット通販の利用拡大で、首都圏では大規模な物流施設の供給が続いて

●輸送機械の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



おり、トラックへの需要は根強いとみられる。しかし、供給面の制約が続いているため生産の停滞は今後も続くと予想される。

完成車メーカーの生産は、乗用車、トラックとも前年を下回ったとみられることから、部品メーカーの生産も前年割れとなった模様だ。先行きについては、乗用車メーカーの生産は上向くことが期待されることから、部品メーカーの生産も上向きになると予想されるが、新型コロナや国際情勢の行方など不透明感は強い。

(4) 鉄鋼…前年を上回る

県内の鉄鋼の生産指数は、低調な動きが続いていたが、一昨年10～12月期に前年比+0.2%とほぼ前年並みの水準まで持ち直した後は、昨年10～12月期の同+7.1%まで5四半期連続で前年を上回った。本年1月も同+2.8%と前年を上回っており、1～3月期を通してみても、鉄鋼の生産は前年を上回ったとみられる。

首都圏では、H型鋼を中心に建設用鋼材の需要が比較的底堅く推移している。県内の棒鋼は、建設現場での組立作業を避ける傾向などもあって、H型鋼に比べると伸びが抑えられているものの、前年並みの水準は維持している。

訪日外国人の減少を受けて、ホテルの建設は低迷が続いている。首都圏の分譲マンションの着工戸

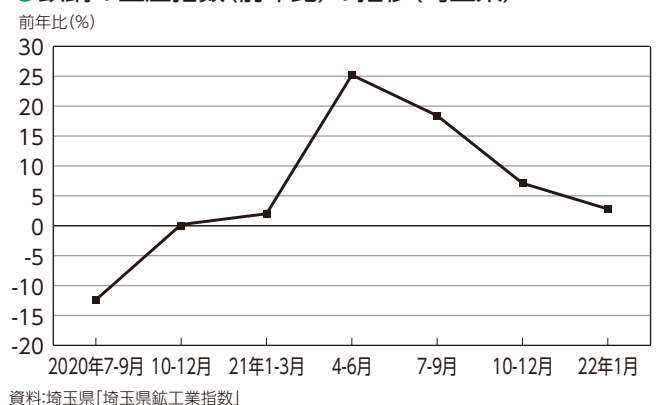
数は底堅く推移しており、やや減速していた病院や介護施設などの医療関連施設は、このところ回復している。スマホの5G基地局など通信施設はこのところ減少しているものの、物流施設は引き続き堅調に推移している。また、テレワークの増加などを受けて落ち込んでいた都心部のオフィスに少し動きがみられる。先行きについても、鋼材の生産は前年を若干上回る水準で推移しよう。

しかし、収益面ではスクラップをはじめとする原材料価格や電気代、物流コストなどが上昇し、コストを大幅に押し上げている。鉄鋼生産が増加しているベトナムやインドネシアなどでスクラップの需要が増加しており、輸出価格の上昇に国内のスクラップ価格も引っ張られているようだ。鋼材メーカーも、製品価格の引き上げを進めているものの、コストの上昇分をまかないきれしておらず、収益は大幅に悪化している。

鋳物の生産は、昨年の秋口以降は、輸出比率の高い工作機械向けなどを中心に前年を上回って推移してきたが、年明け以降は弱含んでいる。堅調な公共投資の動きを反映して、高い水準で推移してきた鋳鉄管についても、足元の生産は前年を下回っているようだ。

今後も、鋳物の生産は前年をやや下回って推移するとみられる。収益面では、スクラップ価格の値上がりに加えて、鋳物用銑鉄の価格や電気料金が

●鉄鋼の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



大幅に上昇している。ロシアのウクライナ侵攻に伴って国際商品価格が急騰しており、先行きも一段の上昇が見込まれる。製品価格改定交渉が進められているものの、思うようには進んでいないようだ。先行きも収益は厳しい状況が続くとみられる。

(5) 建設…ほぼ前年並みで推移

公共工事: 県内の公共工事請負金額は昨年7～9月期前年比▲2.2%、10～12月期同+0.6%、本年1～3月期同▲21.9%となった。昨年中は好調な推移が続いたが、本年入り後やや低調な発注状況となっている。県内業者では公共工事は受注残が多く、足元の工事量も高水準で安定している。ただ、このところの鉄鋼、セメント、木材などの資材価格の上昇により収益面で厳しさが出てきている。公共工事は受注時と実際の工事、資材仕入れの時期にずれがあり、予定していた収益を確保できない状況がみられる。また、新規受注に当たっては、資材価格の先行きによっては、赤字受注になる懸念もあり慎重となっている。公共工事の内容は、改修・補修工事が多く、新規の建設案件は少ない。

先行きは、工事は当面繁忙な状況が続くとみられる。ただ、資材価格の高騰や、新規案件の受注手控えなどにより、収益面での厳しが増すことが懸念される。

民間工事: 県内の非居住用の建築着工床面積は昨

年7～9月期は前年比▲3.2%、10～12月期は同+88.4%、本年1～3月期は減少となった模様。月毎の振れはあるものの、民間工事は着工ベースで持ち直している。また、受注残は相応に確保しており、工事量はほぼ横ばいの推移となっている。

用途別では倉庫など、運輸業用が引き続き好調である。なお、昨年は運輸業用が県内の非居住用の着工床面積の42.4%を占めた。工場や商業用も持ち直しの動きがみられる。医療・福祉関係は堅調な動きが続いている。引き続き、県内の工事の多くは県内業者が請け負っており、価格面でも良好な状況が続いている。ただ、公共工事同様、資材価格の上昇により収益面で厳しい状況が出てきている。

先行きは、都内での受注競争が激しくなると、県内でも競争が厳しくなる懸念もあるが、現状では大きな影響はみられず、当面、工事量、価格面とも現状程度で推移する見込み。ただ、資材価格上昇の影響が懸念される。

住宅: 昨年7～9月期の新設住宅着工戸数は前年比+5.7%、10～12月期は同+9.0%、本年1～3月期も増加となった模様。住宅は着工戸数の増加が続いている。

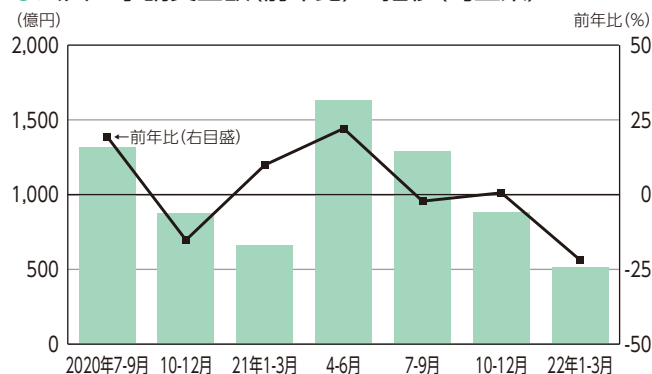
マンションは適地が少なくなっていることや、業者の収益面も厳しくなっていることもあり、このところ着工、販売戸数とも減少している。

戸建の分譲住宅は新型コロナ感染の影響から、土地仕入れや新規着工を絞っていたが、このところ持ち直している。低金利や所得環境も悪くないことから、好立地物件を中心に販売面は好調であり、土地の仕入れには各社とも積極的である。

貸家は、しばらく新規着工が手控えられていたが、持ち直しの動きがみられる。

先行きは、住宅全般について、現状から横ばい程度の動きが予想される。このところ、木材や鉄鋼、アルミなどの資材価格が上昇しており、現在、業者は販売価格への転嫁を計画しているが、価格の上昇

●公共工事請負金額(前年比)の推移(埼玉県)



資料:東日本建設業保証(株)

による販売面への影響が懸念される。

(6) 百貨店・スーパー…スーパーは堅調に推移

百貨店:1～3月期の売上は前年を上回ったようだ。新型コロナ・オミクロン株の感染拡大でまん延防止等重点措置が適用されたが、前年も緊急事態宣言が発出され売上が減少していたため、前年対比では増加した。しかし、新型コロナ感染拡大前の2019年対比では減少が続いた。百貨店の販売は上向いてはいるものの、新型コロナ拡大前の水準に依然として届いていない。

品目別では、主力の衣料品は、まん延防止等重点措置により外出自粛の動きが広がったものの、気温が低めでコートなどの冬物衣料品や入学・卒業関連の制服やスーツなどのフォーマルウェアが堅調だった。しかし、テレワークや外出を控えるなど新しい服を着て出かけるという需要が減り、販売に勢いはない。一方、食料品の売上は巣ごもり需要の高まりで堅調に推移している。旅行を控えているためか、食品関連の物産展も好調である。

高額品の消費は堅調な動きが続いている。バッグ、財布などの高級ブランド品や、宝飾、時計などが好調だった。富裕層向けの外商の売上も増加が続いている。一般の中間層は消費に慎重な姿勢を見せている。新型コロナやウクライナ侵攻など先行きの不透明感に加え、値上げとなる商品が増えており消費者は生活防衛色を強めている。ついで買いよりも必要な商品を厳選して購入する傾向が強まった。

先行きについては、春は新生活の時期であり、暖かくなるにつれ行動範囲も広がり、消費意欲も高まり、販売は上向くと予想される。しかし、新型コロナに加え、国際情勢も不安定化、物価上昇などの不安材料も多い。先行きの不透明感は依然として強く、下振れリスクも大きいとみられる。

スーパー:新型コロナの感染が拡大した一昨年の降、巣ごもり需要の増加からスーパーの売上は堅調

な推移が続いている。1～3月期の売上は前年との比較ではやや減少したとみられるが、コロナ前の2019年比では大きく増加した模様である。

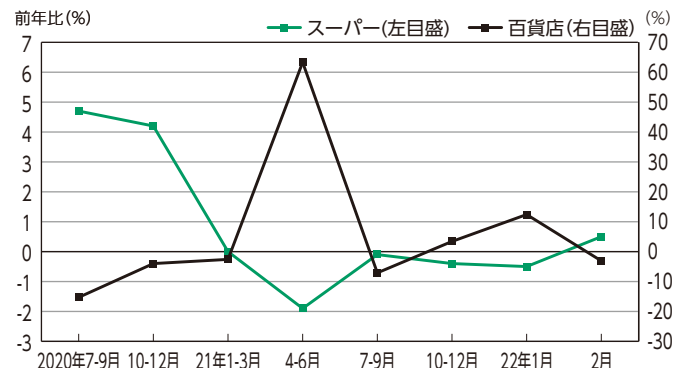
品目別では、主力の食料品は好調が続いている。売上は、前年比では減少となる月もあるが、コロナ前の2019年比では増加が続いている。自宅で食事をする内食傾向が続き、総菜などの調理済の商品や冷凍商品、レトルト食品などが堅調である。外出・旅行を控え、その分の支出を上質な食品に回しているためか、比較的単価の高い商品もよく売れている。また、密を避けるためネットスーパーの利用も拡大している。玄関先に商品を置き、配達員と接しない置き配も人気だという。

衣料品は不振が続いている。減少が続いたため、前年と比べると増加した月もあったが、2019年対比では減少傾向は変わっていない。

また、買い物をする時間が昼間にシフトしており、夜の売上が落ちていることや、光熱費などの経費の上昇から、閉店時間を早める動きもあった。

先行きについては、食料品は好調、衣料品は低迷という傾向は変わらないとみられる。ただし、ワクチンの普及に伴い新型コロナが収まるにつれ、外食や旅行などへ消費の傾向が変わることも予想される。また、原材料価格の上昇などを受けた物価上昇で、消費マインドが冷え込み、消費者の節約志向が強まることも懸念される。

●百貨店・スーパー販売額(前年比)の推移(埼玉県、既存店)
前年比(%)



資料:経済産業省「商業動態統計」